

## 人間に生まれることは難しい

大和町 渡辺 悟

私は1980年生まれで、世間では無気力世代と呼ばれています。それを象徴する言葉が「生きたくもないし、死にたくもない、一言で言えば、ただただ、めんどくさい」だそうです。

私もお恥ずかしながら、上手に言ったものだなあと深く頷いてしまいました。毎日毎日、同じことの繰り返し、楽しいこともないこともないけれども、嫌なことも多く、惰性で今日も目を覚まし、車に乗り、仕事に行く。でも有難いことに私は「人間に生まれることは難しいのだ」という仏さまの呼びかけを思い起こすことができます。

これは『三帰依文』という、仏さまのみ教えを人生の指針にして生きていきます、という宣誓文で、その冒頭にある言葉です。私たちは好きでこの世に生まれたのではないのですが、仏さまによれば、人間に生まれるためには、過去世から累積された莫大な功德が必要なのだそうです。その上、私たちは屋根のある家に住み、三食食えることができています。これも求めても得ることができない難事とされており、私たちは、それすら既に達成しています。

自然界の生き物が一日の食にありつけた様を想像してみてください。一日中、鼻をクンクンさせて、ようやく食事を得ることが出来たら、幸せそうに眠っていますね。私たちもまた自然界の生き物です。本当は屋根のある家に住み、三食食えることができるだけで幸せだったのかもしれない。

私は惰性で生き始めたなと思ったら、朝食の粥のお椀を手で包み、目を閉じて、その重みと温かさを掌で感じ、思うのです。「これは只事ではない。この食は累積された功德の集まりであり、この食を摂るのは、惰性で生きていくためではない」と。